

学校教育目標		ふるさと十津川を愛し、ふるさとでの学びを活かして、新しい時代を築く、心豊かな生徒の育成						総合評価 (A~D)	
目指す生徒像		自主一自ら進んで学び、考えて行動できる生徒(確かな学力) 協働一勤労と責任を重んじ、礼儀正しく協力できる生徒(豊かな人間性) 剛健一自他の生命を尊重し、明るく元気でたくましく心身を鍛える生徒(健やかな体)							
令和4年度の成果と課題		本年度の重点目標			具体的方策				
適切な感染症対策を心掛け、生徒の安心・安全な行事運営に努めた。又、タブレット端末の有効活用、生徒会活動の活性化等に注力し、学校教育を充実させた。キャリア教育を学習意欲の向上に繋げるとともに、特別支援・通級指導の全校体制化をより一層推進する。		・基礎、基本の定着と、学びに向かう力を育成する。			生徒の実態を把握し、個に応じた指導の充実を図る。				
		・生徒の、主体的な活動を重視し、積極的に行動できる生徒を育成する。			生徒会活動が、より自発的・自治的な活動になるよう、全教員で支援する。				
		・郷土を愛し、未来を担う生徒を育成する。			地域の教育資源を活かした学習を通し、地域課題を我が事として捉える力を育てる。				
		・自己の将来に対する目的意識を育成する。			勤労の尊さを理解させるとともに、自らの力で進路を選択していく生徒を育成する。				
		・心のふれあいを大切に、人権意識の向上を目指す。			道徳の時間を中心として、全教育活動を通して人権意識を高め、人権を尊重する実践力をもたせる。				
		・生徒が、心身ともに健康な学校生活を送れるようにする。			食に関する教育の充実を図るとともに、生徒が「健康」について意識を高めることをめざす。				
		・保護者や地域、村内各校所、関係諸機関との連携をより深める。			家庭や地域社会との関わりを多くもち、教育活動に必要な人材や資源を外部から集め活用する。				
評価項目	具体的目標 評価小項目	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(2月)			学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
				自己評価 (A~D)	進捗状況	自己評価結果 (A~D)	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	
学習指導	国語	小テストを実施し、こまめに復習する機会を設ける。	学習を習慣化し、日々の学習を積み重ねていく態度を養う。	B	週初めの授業で漢字テストを実施し、少ない範囲を小まめに学習できるように取り組んでいる。また、夏休み後には、課題テストを行いこれまでの学習を振り返る機会を設けた。				
	社会	地図・地名・年表等の基礎的な内容を小テスト等を通じて定着させる。	基礎的な知識の理解と応用を通じて、学習に対する意欲を育てる。	B	基礎的な知識の定着に個人差がある。小テストを実施するだけでなく、再テストなど復習の機会を、他教科と時間を兼ね合いながら実施できるようにしていく。				
	数学	自分の考えを説明する活動を通じて、数学の説明することに対する苦手意識を少しでも軽減させる。	生徒一人一人に応じて説明しやすい方法を考え、自らの考えを説明し調整できる授業を研究・推進する。	B	タブレットを用いた授業ごとの確認シートで授業内の理解度を可視化することで状況把握を行っている。さらなる理解を深めるため説明する問題を取り入れている。				
	理科	ワークと理科ノートを活用することで、重要語句の定着を図る。授業の中で、理科に関する日常の不思議、規則性を考えることで、思考力を高める。	自然の事象や現象について、理科の知識を活用して文章で論理的に説明する。	B	授業中に理科ノート、次の時間の最初にワークを実施することで、重要語句の定着を図ることができた。身近な自然現象に関係した文章テストを実施することで、重要語句の活用に取り組んでいる。				
	音楽	積極的かつ楽しんで音楽活動に取り組む、音楽文化に親しむ態度を養う。	ICT機器の活用、綿密な授業計画、効果的な実技指導の研究、鑑賞における教材研究に努める。	B	1学期末に実施した音楽の授業アンケートでは、全学年を通して進んで音楽の授業を受けている様子が見られた。特に歌唱と器楽の授業に関しては高い満足度が見られた。鑑賞の授業においても積極的に授業に参加できる工夫を図っていきたい。				
	美術	できる限り多くの作品例や視覚的資料を提示し、それらから感じ取れる美や創意工夫を自分の表現に活用する。	各自が造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。	B	どの学年も各課題において実際に実習に取りかかる前に自分の作品制作について十分検討できるようにしている。				
	技術	基本的な技術の知識を学習した上で、その知識を活用することのできる実習を提供して知識の定着と達成感を味わい意欲を高める。	人間の営みの中で発展してきた技術についての理解し、自分自身の生活をより良くしようとする態度を身につける。	B	各学年、技術についての知識を学習した後、実習を行い内容を深めることができている。				
	家庭	各分野において可能な限りの実習を実施し、技能を定着させる。	衣生活・住生活・食生活を自身の問題として考え、家庭で実践する態度を養う。	B	衣生活、食生活ともに1度は実習することができた。家族・家庭生活分野においても、11月に保育実習を消費生活は消費生活センターへ問い合わせたオンライン授業を3学期に予定している。				
	保健体育	サーキットトレーニングを実施し、体力の向上を図る。生徒の運動能力に応じた試行錯誤の場を設定し、運動の技能や課題解決のための思考力を高める。	自分自身の能力に応じた運動への取り組み方を身につけ、基礎的な技能を身につけている。	B	毎時間のサーキットトレーニングにより、継続的に体力の向上に取り組んでいる。学習カードによる振り返りを活用し、自分の課題や達成度に応じた取り組みができるような、場や課題の設定を行っている。				
英語	できる限りわかりやすい授業展開を心がけ、生徒の苦手意識を軽減させる。	間違ふことを恐れず、積極的に英語を使う態度を養う。	B	プリント教材の作成を工夫している。主に英語を「書く」という点に重点を置き、積極的に英語を使う機会を増やすことができている。					

研究研修	生徒の主体的な学びを育てる授業の創造	総合的な学習の時間を通して、十津川村の自然、歴史、文化を主体的に学ぶ。ふささとの学びを基盤に、村内・村外で新しい取組を実践する。	生徒が主体的に、計画、活動、振り返り、改善を図り、新しい取組を生み出すことができている。	B	1年生の総合的な学習では、十津川村の文化を中心に学習している。地域の方と協働して生徒の教育に関わることで、村の文化を大切に育むことができている。			
生徒指導	積極的な生徒指導の推進	安全で安心できる学校を目指し、登下校の立哨や指導、こころといじめのアンケートを実施する。	いじめアンケートをもとに、早期発見、未然防止に努める。定期的に生徒指導部会を設け、職員全員で情報共有し指導にあたる。	B	アンケートの実施後には各担任が二者懇談を行い、1人1人と話す機会を設けた。気になる生徒については、SCとのスクリーニング会議や生徒指導部会を実施し、職員全員で情報共有を行った。			
特別活動等	望ましい集団活動を通し、自己を生かす能力の育成	すべての生徒が主体的に学校生活を送るため、生徒会執行部を中心に新たな活動に取り組んでいく。	行事ごとに、生徒一人一人が目標を設定したり、各行事で生徒会執行部以外に実行委員を募集するなどして生徒全員での活動にしている。	B	年間行事に合わせた委員会の時間を確保することで、委員会を中心にした行事の運営を実施することができている。			
教育相談	自尊感情の(自己肯定感)の育成	生徒の自己否定的な意見や小さな変化を見逃さず、生徒の不安や悩みに寄り添い、聞く体制の充実を図る。	教員で連携し、未然防止、早期発見、早期対応、支援につなげる。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも積極的に連携し、支援についての助言・指導を得る。	B	スクールカウンセラー来校日を事前に職員朝礼やお便りや教員・生徒・保護者に知らせ、情報共有や相談の実施につなげている。9月末時点でスクールカウンセラーとの相談は生徒3回、保護者2回であった。			
キャリア教育・進路指導	進路実現を見据えたキャリア教育の充実	生徒が主体的に進路選択できるように、さまざまな進路の情報や体験活動を提供する。	生徒が、自分なりの将来像を実現するために、学校生活や学習活動に前向きに取り組んでいる。	B	悪天候のため第1回の進路説明会を実施することができなかった。第2回の進路説明会を11月に予定している。進路通信、進路掲示板、パンフレットの置き場を3年生教室前に設け、手に取りやすい環境を整えている。			
道徳教育	道徳教育の充実	各学年の道徳や合同道徳で、考え議論する授業を行い、多面的・多角的に考える力を養う。	学年の枠を超え、自分の考えを出し、相手の意見も聞く姿勢をもって取り組んでいる。	B	昨年度に引き続き合同道徳を行い、学年を越えて互いの考えを交流している。複数の教員で問い返しを考え、ねらいに迫る授業を展開するように工夫している。			
人権教育	生命の尊重と人権意識の高揚を目指した確かな人権教育の推進	人権講話や道徳を軸とし、日常生活の中で成功体験を積み重ねることで、自己肯定感を養う。	自らの成功体験ができるような活動や、日々の生活の中で適切な声かけや行動が見られた場合は積極的に褒める。	B	昨年度に引き続き人権講話を各先生方から行ってもらう。人権について深めている。各委員会活動などで、それぞれの役割を持ちながら成功体験を積ませている。			
特別支援教育	みんなで関わる特別支援教育の推進とインクルーシブ教育の充実	人権教育や道徳教育、各学習活動を通して特別支援教育について正しく理解できる学習を行う。専門機関などの連携を図り、特性や障害に応じた指導計画の作成や適切な指導を行う。	生徒間や教師間でそれぞれ偏りのない特別支援教育についての知識を共有する。専門機関と密に連携を行う。	B	担当教員を中心に特別支援教育を進めるにあたってすべての教員が情報を共有し特別支援対象生徒にかかわる体制を整えている。			
安全教育	保健安全・防災安全教育の充実	生徒が自己管理能力を身につけ、健康に生活ができるよう啓発・指導をする。また、日常の健康観察により、生徒の健康状態を把握し、健康の保持増進に努める。	教員で連携し、生徒の日常の様子を把握し、様子を見るときにも適切に対応する。気になる様子の生徒がいた際には、教員で情報共有し、共通理解を図る。	B	健康観察による生徒の健康状態の把握や体調不良等の生徒に関する情報共有を実施している。また、歯科衛生士による歯みがき指導や栄養教諭による食に関する指導を実施した。			
家庭・地域社会・他校種・関係機関等との連携	学校評価を活用した開かれた学校づくり	積極的な情報収集・発信・連携により、保護者・地域等から信頼される学校づくりを目指す。	総括に基づいたPDCAサイクルにより、連携を充実させる。	B	昨年度からの引継ぎが確実にできていないことが原因で行事等を円滑に実施できていない部分があり、保護者から指摘をいただいた。			
第1学年	基本的な学校のルールを守り、集団生活の基礎を身につけさせる。	友達との会話と先輩や先生との会話での言葉遣いに気をつけることや、チャイムと同時に授業と休み時間とのメリハリをつける。	授業と休み時間のメリハリをつけるよう声かけを徹底し、学年だけではなく他の先生とも連携し指導する。	B	言葉遣いについて、違和感を感じる言葉に関しては、声かけを行うことで、言葉遣いには少しずつ改善が見られる。時間についても予鈴で動くことができるようになってきている。			
第2学年	リーダーシップの養成とキャリア教育の充実	学校生活の様々な場面で、集団の一員であり、中心であることを自覚させる。また、職業学習や進路学習を中心に、将来についての見通しを立てる力を養う。	上級生や下級生との関わりの中で他者を尊重する態度を養う。また、自分の理想とする将来を実現させるための見通しを立てようとしている。	B	職場体験を通して、自分の将来について考える機会を設けることができた。しかし、学校生活に慣れ、生活リズムの崩れや、家庭学習をおろそかにしているように感じる。学級通信などを活用し、保護者との情報共有を大切にしていきたい。			
第3学年	最高学年としての責任感の育成と進路学習の充実	最高学年としての自覚と責任を意識させ、主体的な活動を積極的に取り入れる。また、自己の能力や目標に応じた進路選択ができる力を養う。	集団の中で自分の役割を見つけ主体的に活動に取り組んでいる。また、希望する進路を実現させるために自主的に行動する力が身に付いている。	B	様々な行事でコロナ対策が緩和される中、最高学年としてリーダーシップを発揮する場面が多く見られた。しかし、学習習慣が定着している生徒が少なく、自律性をさらに育てていくことが今後の課題である。			
学校教育の維持・向上	働き方改革の推進	教育活動の効率化を工夫し、生徒の学力向上と、教職員の仕事と健康の調和を心掛けた働き方改革を進める。	時間外勤務時間を増加させることなく、総括表の各項目で結果の維持・向上が見られる。	B	超過勤務時間は1人当たり9月までの合計平均で22時間減少している。教育活動もコロナ規制前の状況に回復している。			

○自己評価・総合評価・・・4段階で記入 A:十分 B:概ね十分 C:やや改善を要する D:改善を要する